



田原の杜

北九州市立田原中学校

学校通信 3・2月号 No.16

発行責任者 校長 寺田 訓康

TEL 472-3321

令和6年3月18日発行

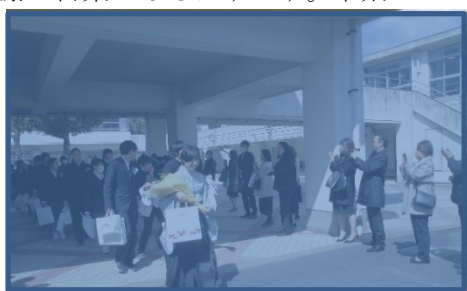
■ 198名が未来へ巣立ちました！

好天に恵まれた3月8日（金）198名が田原中学校から巣立ちました。式辞でも言いましたが、3年生は、コロナ感染症で大きく変わった学校生活を、安全・安心に注意しながら、みんなの心に残るような行事を創造してくれました。昨年度より、体育大会や文化発表会は、3学年合同で開催できるようになりました。3年生の一生懸命取り組む姿や作品を示すことにより、1、2年生「私たちも、こうなりたい」とか「私たちの時は、こんなこともやってみたい」という目標を示してくれました。今年の体育大会では、色旗を作り学年を超えたまとまりを創り出しました。学校は、友達や先輩方の姿を見ることによって、「こんなことができるんだ！わたしもやってみたい。」「面白い方法だな。私なら、こんな方法でやってみたいな。」と、未来の自分のなりたい姿を見つけることが目的の一つです。その姿を3年生は示してくれました。

これからは、1、2年生の皆さんの順番です。3年生がやってきたことを参考に、皆さん自身のアイデアを加えて、より思い出に残るためには、より効果的な取り組みになるにはどうすればよいか考えて、実行に移してください。

コロナ感染症が5類に移行され、様々な取り組みが許可されるようになり、創造的な取り組みが求められる今、既存概念（校長先生のように「今まではこんなことしてたから、今年も同じようにしよう」と考えること）にとらわれない皆さんの考え方が大切になっていきます。ただ、いろんな考え方を持っている人がいます。また、数が多いほうが必ず正しいわけではありません。声が小さな人や、少数の意見も大事にしなければいけません。感染症も完全に落ち着いたわけではありません。ほかにも、自然災害や不審者・記録的な暑さなど私たちの周りには、気を付けないといけなことがたくさんあります。安全・安心を第一に考え、多くの人の意見に耳を傾け、そして、みんなの心に残る取り組みは簡単ではありません。しかし、やり遂げるときと今まで味わったことのない充実感を得られると思います。

新一年生を加えた新生田原中学校で、そんな取り組みを創り出していきます！皆さんならきっとできます。そして、それを達成することが卒業した3年生への一番の感謝の言葉になるはずです。卒業した3年生のみなさん、新しい場所での活躍を期待しています。そして、これからの田原中を見ていてください。



保護者や在校生に見送られて巣立ちました。

■ クラスマッチを行いました！

1年生は、3月13日（水）にサッカーのクラスマッチを行いました。どの学級も自分のクラスを一生懸命応援し、学級のまとまりが感じられました。また、残念ながら敗れた学級も、仲間に温かい声をかけ、勝ったチームに拍手をするなどさわやかな場面も見られました。結果として、勝ち負けはつきましたがどのクラスも大変良く頑張りました。



ペナルティーキック合戦で決まる試合も！

2年生は、インフルエンザが広がったため、18日に延期しました。1年生に負けないさわやかな試合を行い、一段とまとまった学年になると思います。

2年生は、インフルエンザが広がったため、18日に延期しました。1年生に負けないさわやかな試合を行い、一段とまとまった学年になると思います。

■ 自然災害への備えを確認しましょう！

3月11日（月）は、東日本大震災が発生して13年目となります。中学生の皆さんは、まだ小さくて、記憶にないかもしれませんが、津波が襲ってくる場面などをテレビで見



全校生徒で黙祷を捧げました。

て、恐怖を感じた人もいるのではないのでしょうか？

このようなとき、中学生としてできることはないのでしょうか？岩手県の釜石市のある地区では、東日本大震災の時に、校舎に避難していた小学生が、「みんな逃げろ」と言いながら、中学生が高台へ逃げる姿を見て、以前の避難訓練を思い出し、一緒に避難しました。その結果、この地区の小・中学生の人的な被害は少なく「釜石の奇跡」と言われています。中学生は、「津波でんでんこ（津波が来そうだったら、まず自分が高い所へ逃げなさい。その姿を見れば、多くの人がついてきてみんなが助かります。）という教えをしっかりと守りました。

また、今年の正月には、能登半島で大きな地震が発生し、多くの命が失われ、今も多くの人が不自由な生活を強いられています。中学生は、社会のために力を貸せる年代です。日頃から自然災害に備えて、何かあったら皆さんの力を発揮できるように、してください。社会は、皆さんの力に大きく期待しています。